



日本統計学会 会報 2019.1.30

No.
178

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—西郷 浩 (理事長) / 中野 慎也 (庶務理事)
伊藤 伸介 (広報理事) / 古岡 弘樹 (広報委員)
水野谷 武志 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|---|
| 1. 巻頭随筆：統計学の教育とデータサイエンス
.....田村義保... 1 | 6. 日本経済学会連合からのお知らせ
.....坂野慎哉・西郷 浩... 8 |
| 2. 第13回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)
.....西郷 浩・山本 涉ほか... 3 | 7. 国際ベイズ分析学会東アジア大会 (EAC-ISBA)
のご案内.....各務和彦・宮脇幸治・高橋 慎... 8 |
| 3. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集
.....西郷 浩... 4 | 8. 理事会・委員会報告 (2018年11月3日開催) ... 10 |
| 4. 第68回全国統計大会の報告.....赤平昌文... 6 | 9. 新刊紹介..... 11 |
| 5. 統計検定の後援事業承認の報告
.....赤平昌文・西郷 浩... 7 | 10. 学会事務局から..... 12 |
| | 11. 投稿のお願い..... 13 |

1. 統計学の教育とデータサイエンス

田村 義保 (統計数理研究所特任教授・(独) 統計センター特別研究員)

初等中等教育で児童・生徒が統計・統計学に関して学ぶ内容が充実されてから久しい。学習指導要領の改訂は「統計思考力の必要性」を考えたことだと思われる。小中高とも次期学習指導要領案がすでに示されており、現課程よりもさらに中身が濃く、体系的な整理がなされていると聞いている。

高等教育においては、滋賀大学と横浜市立大学にデータサイエンス学部が新設され、多くの志願者を集めている。データサイエンスを教育するための課程として社会の注目を集め、産学官からその成果が期待されている。また、総務省政策統括官(統計基準担当)による、「生徒のための統計活用～基礎編～」, 「高校からの統計・データサイエンス活用～上級編～」も刊行されている。文科省に関係した教育機関だけでなく、日本の統計行

政の中心である総務省が、このようなテキストを刊行し、また、統計研究研修所等でも、指導者講習会等を通して、統計学・データサイエンスの教育を行っていることは心強い限りである。

統計数理研究所においても「データサイエンティスト育成ネットワークの形成」事業や「人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクト」の中の人材育成事業を通してデータサイエンティスト(Leading Data Analytics Talents)の育成を目的としたプログラムを実施し、高い能力を持った研究者・実務者の養成に努めている。ねらいはデータサイエンティスト協会が平成26年に公開したスキルレベルの中の「棟梁レベル」500人を育成することである。

滋賀大や横浜市大における学部教育や数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム(北

大、東大、滋賀大、京大、阪大、九大)による数理・データサイエンスを中心とした全学的・組織的な教育を行うセンターの整備と全国的なモデルとなる標準カリキュラム・教材の作成等、高等教育の充実も進んでいる。さらに、滋賀大や、横浜市大では大学院設置が決定(計画)されており、さらに高度な教育体制が期待されている。統数研は総合研究大学院大学統計科学専攻で後継研究者を育成するだけでなく実務家として高度なデータ解析能力を有するデータサイエンティストの育成にも努めている。また、上述のような事業や公開講座を通して他大学院の学生や社会人への高レベルの教育も行って来た。

日本統計学会スポーツ統計分科会はスポーツデータ解析コンペを実施し、実際のデータを用いたデータ解析能力の向上を目指している。このようなデータ解析コンペは色々なところで実施されており、今年度からは、総務省統計局、(独)統計センター、(一財)日本統計協会が主催の統計データ分析コンペティションが実施されている。コンペのために、教育用標準データセット(Standardized Statistical Data Set for Education: SSDSE)を作成していることは特筆すべきである。統計思考力の質保証等ための統計検定も受検者数の増加傾向を見ると十分に世の中に受け入れられている。文科省の補助金事業で活動を始めたJINSEは補助金終了後も活発な活動を継続している。民間の統計的データ解析に関する講習会やセミナーも数多く開かれている。

日本における統計的データ解析の能力を高めるための教育状況は歴史的に例を見ないくらい充実している。これは、国際的な学習到達度試験での成績分析による「統計的思考力の低さ」への危機感やビッグデータ、AIに対応できるスキル所有者の「人材不足」への対応の必要性を施政者、教育者、経営者が感じているからであると考えられる。

ビッグデータとは何であろうか？4Vや5Vとか言われているが、筆者はVolumeよりもVariety

やVelocityに注目すべきだと考える。発生速度に見合った解析プラットフォーム、解析手法が必要であることは言うまでもない。この解析を行う者がデータサイエンティストである。ずっと、解析という言葉を使ってきたが、データアナリティクスが手法としての総称であるように思う。学術的な体系の総称はデータサイエンスである。

データ中心科学という言葉やEB**という言葉も良く聞く。データ中心科学は第4の科学とも言われている。「理論、実験、およびシミュレーションを統合する」ことは行っておらず、経験科学というべきであるかもしれないが、「ヨハネス・ケプラーがティコ・ブラーエの惑星に関する観測結果から有名な三法則を発見したこと」や「ルネ・デカルトやエドモンド・ハレーが貿易風を可視化したこと」はデータアナリティクスでありデータ中心科学に分類した方がよいと考える。Evidence Basedで診断したり政策を決定したりするのは正しい方向だと思いが、正しい「エビデンス」が必要であることを胆に銘じて欲しい。

本会報No.174の巻頭随筆によると去年は(一財)統計研究会の創立70周年だそうである。また、今年度は明治150年(万年齢)だそうで、統計局では「明治150年統計の黎明とその歴史」の展示が行われている。「歴史と統計学 人・時代・思想」(竹内啓、日本経済新聞社出版)が2018年7月に出版されている。歴史についてはこれらを参照して欲しい。統数研は2019年に75周年を迎える。少し古くなるが統数研50周年記念の「統計数理」に赤池弘次先生による「英国王立統計協会のRSS News, Vol.21, No.3 1993によれば、スポーツ関係行事の数の増加とともにスポーツ統計に関心が高まり、(以下略)」という一文を含んだ論文がある。色々な分野でデータサイエンスが必要であることを先見していたように思う。先人が残したものを活かしつつ、これからも統計学的データ解析がデータサイエンスの中心となり、暮らしやすい世界となっていくことを願う。

2. 第13回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

西郷 浩（日本統計学会理事長）

山本 渉・川崎 茂・永井 義満（企画・行事委員会）

第13回日本統計学会春季集会を日本大学にて開催いたします。会員の皆様による活発な議論を期待しております。プログラムは午前プレナリー形式のセッションを一つ、午後4つの企画セッションを2つずつ並行する予定です。これまでのところ、次の3つの企画セッションが確定しています。

プレナリーセッションは狩野裕先生にオーガナイズをお願いし、超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業に関わる大学の皆様より、採択プロジェクトを紹介していただく予定であります。その他のセッションも決まり次第、春季集会のWebサイトでアナウンスさせていただきます。

また今回もポスターセッションの発表を広く募集しております。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、懇親会を計画しており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

日時：2019年3月10日（日）9時30分～17時30分+懇親会

会場：日本大学経済学部本館

参加費：無料（ただし事前に参加登録が必要です。懇親会は有料で、参加費7000円を当日に申し受けます。なお学生の懇親会参加費は3000円です。）

懇親会：2019年3月10日（日）18時～20時

懇親会会場：学士会館

春季集会は毎年、事前に参加登録をお願いしています。参加登録の方法につきましては、このお知らせの最後をご覧ください。

○講演者、講演タイトル等のプログラムの詳細情報は、春季集会 Web サイト

<http://www.jss.gr.jp/convention/spring13/> をご覧ください。

○事前参加登録、懇親会の申込み

本集会は、会場の都合上、事前の参加登録にご協力ください。春季集会 Web サイト内の参加申込ページより、2月22日（金）までにお申し込みください。懇親会の参加も、同ページよりお申し込みください。

○ポスターセッションの申込み

春季集会 Web サイト内のポスターセッション申込ページより、2月15日（金）までにお申し込みください（厳守）。ポスターセッションに関する詳細も、同ページをご覧ください。今年度より、旅費の支援助と表彰の対象は申し込み時に学生会員の方に限らせていただいています。

○会場についての事前のご案内

春季集会の当日は日本大学経済学部本館は、経済学部2号館に面した扉のみが出入り可能となります。春季集会の会場は、本館の3階となります。受付も3階となる予定です。ご注意ください。

3. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

西郷 浩（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第24回 日本統計学会賞

第15回 日本統計学会統計活動賞

第15回 日本統計学会統計教育賞

第13回 日本統計学会研究業績賞

第12回 日本統計学会出版賞

第33回 日本統計学会小川研究奨励賞

いずれも推薦期間は2018年12月10日（月）から2019年3月29日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ

（<http://www.jss.gr.jp/society/prize/>）からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

〔宛先・照会先〕

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL&FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

○各賞共通

〔推薦方法〕

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

〔選考方法〕

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

〔発表〕

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

○各賞の概要

日本統計学会賞

〔趣旨〕

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

〔対象範囲〕

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

〔推薦・選考方法〕

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、JISD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦

し代議員会が承認した者若干名。

- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動とし、毎年2件以内に授与する。

(1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。

(2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。

(3) 新たな研究領域・分野の開拓。

(4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、毎年2件以内に授与する。

(1) 統計教育に関する著書、論文

(2) 統計教育の実践

(3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発

(4) 統計の普及、啓蒙

(5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野における優れた研究業績を顕彰する。

[対象範囲]

過去5年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去5年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書を審査対象とする。授賞の対象となる者は、原則、日本統計学会の正会員もしくは学生会員とする。授賞件数は毎年2件程度とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会小川研究奨励賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会

会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書(研究、教育あるいは啓蒙)を出版した著者、編者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

(1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する図書。

(2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

授賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会小川研究奨励賞

[趣旨]

若手の統計学研究を奨励する。

[対象範囲]

授賞対象者は、過去3年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去3年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書の主たる著者とし、日本統計学会の正会員もしくは学生会員であって、推薦書を受理した時点において40歳未満の者とする。授賞対象は原則として毎年1名とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会研究業績賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び副賞として賞金及び小川論文集を授与する。

4. 第68回全国統計大会の報告

赤平 昌文（日本統計学会会長）

総務省等の主催の上記大会が11月19日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。同大会の目的は、国、地方公共団体、関係団体等の統計関係者が一堂に会して相互の交流と研鑽を行い、我国の統計及び統計制度の進歩発展と普及啓発に資することです。今大会では鈴木淳司総務副大臣の主催者挨拶から始まり、その後、「統計調査功績者」の総務、厚生労働、農林水産、経済産業、国土交通の各省大臣表彰が行われまし

た。昨年と同様に女性の受賞者が大変多く感じられました。また、第3回「地方公共団体における統計利活用表彰」の総務大臣賞が神奈川県横須賀市に授与され、続いて統計局長賞、特別賞、奨励賞が授与されました。さらに、「統計データ分析コンペティション入賞者表彰」の総務大臣賞、優秀賞、日本統計協会賞、特別賞が授与されました。

次に、第66回統計グラフ全国コンクールは統計の普及と統計の表現技術の研鑽を図るため、全国

の小学生、中学生、高校生等を対象に統計グラフの募集が行われ全国から27,594作品もの応募がありました。第1次審査及び第2次審査を経た168作品について最終審査で特選6作品が決定され、特に優れた作品に対して総務大臣賞、文部科学大臣賞、日本統計学会会長賞、日本品質管理学会賞、金丸三郎賞、石橋信夫賞が授与されました。日本統計学会会長受賞作品は埼玉大学教育学部附属中学校3年の竹内花奈さんの「高校合格は寝てつかみとれ！睡眠とスマホ・携帯の影響」でした（写真は竹内さんと共に、撮影者は前川恒久氏）。渡辺美智子審査委員長の講評では、中学生の作者の最大関心事である高校受験の合格への鍵について、公表されている全国調査結果や先行研究の結果と作者の中学校での実態調査結果を交えて論理的に導き、特に複数の統計を組み合わせて結論を導いたことが評価されました。会場には受賞作品を含む多くの作品が展示されていましたが、いずれも完成度が高く力作揃いで大変感心しました。若い作成者の皆さんの今後の活躍が大いに期待されます。

その後、今年度の統計の日（10月18日）標語入選者表彰があり、作品「活かせ統計、未来の指針」が特選となりました。また、戦後の統計再建に尽力した故大内兵衛博士の業績を記念して昭和28年度に制定された大内賞の授与が行われ、多年統計実務に従事して我国の統計の進歩に貢献した3名の女性の統計調査員と元経済産業省大臣官房統括経済産業調査官の方々に授与されました。統

計調査員の方々は約40年以上にわたり統計調査に尽力されていて日頃の地道な活動が我国の統計を支えていることが評価されたものです。また、元統括経済産業調査官の方は長年統計業務に従事し、この間、経済産業統計全般の企画・調整に関与し、我国の統計の進歩に貢献したことが評価されたものです。最後に、渡辺美智子先生の司会で受賞者による実績紹介の統計・データサイエンス活用セミナーが開催されました。

今大会への参加を機に、我国の統計を支える多くの方々の長年の労苦に改めて感謝する次第です。



5. 統計検定の後援事業承認の報告

赤平 昌文（日本統計学会会長）

西郷 浩（日本統計学会理事長）

日本統計学会の公式認定として2011年に開始された統計検定は、2018年10月22日に内閣府の後援事業として承認されました。また、11月1日には厚生労働省の後援事業として承認されました。こ

れらの後援を加えて、統計検定は日本統計学会公式認定・総務省後援・文部科学省後援・経済産業省後援・内閣府後援・厚生労働省後援の事業になりましたことを報告いたします。

6. 日本経済学会連合からのお知らせ

坂野 慎哉・西郷 浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では、例年通り2019年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します。応募者多数の場合、日本経済学会連合理事会が対象者を選考します。また、1回の募集につき1学会1件の応募が原則ですので、希望者が複数の場合には理事会で選考いたします。

希望者は、下記の URL で日本経済学会連合国際会議派遣補助の申請書を確認の上、その申請書の「申請学会名」と「事務局所在地」以外の部分を記入して、当該の国際会議に関する情報（レター、プログラム、サーキュラーなど）を添付の上、下記の締め切りまでに、日本統計学会事務局にメール等でお届けください。

<http://www.ibi-japan.co.jp/gakkairengo/htdocs/info/hojo01-gaikoku.html#sub02>

日本経済学会連合 国際会議派遣補助

(a) 目的：

加盟学会の会員が、2019年4月1日から2020年3月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合、往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する。

(b) 補助額：

原則として開催地により7段階（10万円から40万円まで5万円刻み）とする。

(c) 募集時期：

第1回：2019年2月10日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第2回：2019年5月末日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

注）第2回は、第1回選考の結果、余裕定員があるときにのみ応募する。

(d) 応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること、申請学会よりの派遣者が同会議での報告者または討論者であること。被派遣者は、過去5年間、日本学術会議から派遣費を受けていないこと、また、当年度において、日本学術会議をはじめ他の期間から補助を受けていないこと。申請は、1回の募集につき1学会1件に限る。また、補助が受けられるのは、年間で1学会1件とする。

(e) 備考：

補助を受けた被派遣者は、帰国後1ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること。この補助を受けて国際会議に出席した場合には、経済学会連合評議員会（10月ごろ）にて30分程度の報告を依頼することがある。

7. 国際ベイズ分析学会東アジア大会（EAC-ISBA）のご案内

実行委員長 各務 和彦（神戸大学）

実行副委員長 宮脇 幸治（関西学院大学）

広報担当 高橋 慎（法政大学）

ISBA（International Society for Bayesian Analysis, 国際ベイズ分析学会）とは、科学・産業・行政など各方面での理論的課題および実務的課題に有用であるベイズ統計学の理論的研究とその応用を推

進するために設立された国際学会です。1993年に第1回世界大会がアメリカで開催されて以来、定期的にISBA世界大会（ISBA World Meeting）が世界各国で開催されてきました。2012年6月には、

故・和合肇教授を中心として、アジアで初めて ISBA 世界大会が京都で開催されました。この画期的な大会は参加者の評判も良く、多くの日本人研究者の方々にも参加して頂き、日本およびアジアにおけるベイズ理論の普及に繋がりました。

世界大会の京都での開催が一つの契機となって、近年のアジア地域におけるベイズ統計学者の急増を受け、国際ベイズ分析学会に東アジア支部が2016年に設立されました。以降毎年、国際ベイズ分析学会東アジア大会 (EAC-ISBA) が以下のように開催されています。

第1回 (2016年) : 上海交通大学 (中国)

第2回 (2017年) : 東北師範大学 (中国)

第3回 (2018年) : ソウル大学 (韓国)

2019年については神戸大学において開催されることが決定しました。2019年 東アジア大会 Website

<https://eacisba2019.wordpress.com>

で情報を随時更新していますが、概要は下記のとおりです。

現在、一般セッションとポスター・セッションの募集中です。奮ってご応募下さい。

[大会名称] 第4回国際ベイズ分析学会東アジア大会 (EAC-ISBA 2019)

・2019年 東アジア大会 Website :

<https://eacisba2019.wordpress.com>

・ISBA 学会 Website :

<http://www.bayesian.org>

[日時] 2019年7月13日 (土) ~14日 (日)

[場所]

神戸大学六甲台第1キャンパス本館

http://www.kobe-u.ac.jp/en/campuslife/campus_guide/campus/rokkodail.html

[日程]

・一般セッション募集終了 : 2019年3月15日

・ポスター・セッション募集終了 :

2019年4月30日

・早期参加登録終了 : 2019年3月31日

・通常参加登録終了 : 2019年6月30日

・オンサイト参加 (当日参加) :

2019年7月13日~14日

[共催] 統計数理研究所, 神戸大学

[後援] 応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会, 国際ベイズ分析学会 (ISBA)

[参加費]

ISBA 会員・後援学会会員

・早期参加登録 : 20,000円 (学生 : 10,000円)

・通常参加登録 : 25,000円 (学生 : 15,000円)

・オンサイト参加 : 30,000円 (学生 : 20,000円)

非会員

・早期参加登録 : 25,000円 (学生 : 15,000円)

・通常参加登録 : 30,000円 (学生 : 20,000円)

・オンサイト参加 : 35,000円 (学生 : 25,000円)

(*) チュートリアル・セッション参加費とバンケット代は無料です。

[開催趣旨]

近年、わが国においてもベイズ理論に関する認知度は急速に高まりつつあります。しかしながら、この分野での国際会議は日本で開催されたことがほとんどありません。そこで本会議では、2019年7月に第4回国際ベイズ分析学会東アジア大会をわが国において開催・運営することによって、当該研究分野の研究交流を促すと同時に、日本とアジアにおけるベイズ理論の研究の底上げを目指すことを目的としています。

また、本国際会議の開催を通じて、大学院生を含む若手研究者に対し

①ベイズ理論の国際的な研究水準を紹介し、その分析手法の有効性について広く周知する

②第一線で活躍する研究者との研究交流や共同研究の機会を提供することによって、若手研究者の育成を促進することも本会議の目的の一つとしています。若手研究者に対しては研究発表の場を多く提供することを予定しており、国外で活躍する研究者との議論や意見交換を行うことは大いなる刺激となり、今後の日本と東アジアにおけるベイズ理論の研究の発展に大きく寄与することが期待されます。

[セッションの種類と内容 (講演者, 講演タイトル等)]

(1) チュートリアル・セッション (Tutorial Lectures, 2件):

- ・Dipak K. Dey (Department of Statistics, University of Connecticut, USA)
- ・Igor Prünster (Department of Decision Sciences,

Bocconi University, Italy)

(2) 基調講演 (Keynote Lectures, 2件):

- ・Siddhartha Chib (Olin Business School, Washington University in St. Louis, USA)
- ・Hedibert Freitas Lopes (INSPER Institute of Education and Research, Brazil)

8. 理事会・委員会報告 (2018年11月3日開催)

理事会

日時: 2018年11月3日 (土曜日) 午後12時00分~午後12時30分

場所: 統計数理研究所 会議室1 (D222)

理事の総数 13名 **出席理事の数** 10名

監事の総数 3名 **出席監事の数** 2名

出席者:

理事: 赤平昌文会長, 西郷浩理事長, 玉置健一郎 (庶務), 中野慎也 (庶務), 吉田靖 (会計), 佐井至道 (会誌編集和文), 伊藤伸介 (広報), 山本渉 (大会・企画・行事), 稲葉由之 (渉外), 松田安昌 (渉外)
(以上10名, カッコ内は役割分担)

監事: 中西寛子, 中野純司

第1議案 臨時委員会における委員の交代について

西郷理事長より, 資料に基づき, 各臨時委員会委員の再任, 交代について説明がなされ, 承認された。

・[JSS-Springer 委員会] (任期2019.1.1~2019.12.31・全員再任)

国友直人 (委員長), 竹村 彰通 (副委員長), 赤平昌文, 岩崎 学, 大森 裕浩, 北川 源四郎, 谷口 正信, 濱崎 俊光, 樋口 知之, 星野 崇宏, 松井 茂之

・[産学連携推進委員会] (任期2019.1.1~2019.12.31・全員再任)

椿 広計 (委員長), 大野 忠士, 鎌倉 稔成, 鈴木 督久, 中野 純司, 西井 龍映, 舟岡 史雄, 安川 武彦

・[MOOC 委員会] (任期2019.1.1~2019.12.31・全員再任)

佐藤 整尚 (委員長), 酒折 文武, 下川 敏雄, 竹村 彰通, 中山 厚穂, 松田 安昌, 渡辺 美智子

質保証委員会, 基準委員会, 出版企画委員会については, 再編を検討するため継続審議することとした。

第2議案 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

西郷理事長より, 資料に基づき, 学会賞各賞の候補

者推薦を開始し, 会報およびホームページで周知する旨が報告され, 承認された。尚, 推薦受付期間は2018年12月10日より2019年3月29日までとし, 会長が推薦する選考委員は社員総会において承認を得ることとする。

第3議案 女性統計家・データサイエンティスト育成分科会設置について

西郷理事長より, 資料に基づき, 女性統計家・データサイエンティスト育成分科会設置の申請が来た旨が報告され, 社員総会で審議することについて, 承認された。

第4議案 社員総会召集について

赤平会長より, 社員総会を以下のとおり招集する旨が説明され, 承認された。

1. 日時 2019年3月9日 (土曜日) 午後6時から
2. 場所 日本大学経済学部7号館7051教室
3. 会議の目的事項
(1) 社員総会における通常の審議

第5議案 被選代議員会招集について

赤平会長より, 被選代議員会を以下のとおり招集する旨が説明され, 承認された。

1. 日時 2019年3月9日 (土曜日) 社員総会終了後午後7時30分頃から
2. 場所 日本大学経済学部7号館7051教室
3. 会議の目的事項
(1) 会長候補者の選出
(2) 被選理事長の選出

第6議案 会員の入退会

西郷理事長より, 回収資料に基づき, 入退会希望者が紹介され, 審議の結果, 承認された。

委員会

日時: 2018年11月3日 (土曜日) 午後12時30分~午後13時30分

場所：統計数理研究所 会議室1 (D222)

出席：理事10名, 監事2名, 計12名

赤平昌文会長, 西郷浩理事長, 玉置健一郎, 中野慎也, 吉田靖, 佐井至道, 伊藤伸介, 山本涉, 稲葉由之, 松田安昌, 中西寛子(監事), 中野純司(監事)

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

西郷理事長より, JJSD は順調に進み始めており, 特に報告すべき事項はない旨, 青嶋委員長から連絡があったことが報告された。

2. 和文誌編集委員会

佐井委員長より, 48巻1号が発行されたとの報告と, 48巻2号について学会賞受賞者特別寄稿論文を含む最大5~6本を予定している旨の報告があった。

3. 大会委員会

山本委員長より, 連合大会の報告がウェブページに掲載されたことが報告された。

4. 企画・行事委員会

山本委員長より, 第13回春季集会の準備状況について報告がなされた。

5. 庶務委員会

①代議員選挙について

中野委員長より, 代議員選挙について2018年11月18日に投票を締め切り, 翌日19日に開票する予定であることが報告された。

②転載許諾手続きについて

中野委員長より, 資料に基づき, 和文誌掲載論文について転載許諾の依頼があったことの報告と, 学術著作権協会から転載許諾事業開始の連絡があった旨の報告があった。

6. 広報委員会

伊藤委員長より, 会報177号が刊行されウェブページにも掲載されたことが報告された。また, ウェブページに統計関連学会連合大会の国際セッションの報告を掲載したこと, JSS-Springer のページと英文ページを更新したことが報告された。

7. 国際関係委員会

西郷理事長が国際関係委員会の報告を代読し, 統計関連学会連合大会における CSA-KSS-JSS セッション, Wakimoto Memorial セッションの開催, 及びそれに伴う

KSS, CIPS 会長招聘について報告がなされた。

8. 渉外委員会

①統計検定について

稲葉委員長より, 資料に基づき, 2018年6月に行われた統計検定について報告がなされた。

②科研費「国際情報発信強化」への申請について

松田委員より, 科研費研究成果公開促進費に応募予定である旨が報告された。

9. その他

・JJSD の寄贈について

西郷理事長より, 従来の JJSD の寄贈先には JJSD を寄贈することが報告された。

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

審議事項なし

5. 庶務委員会

・学会ロゴの使用条件について

中野委員長より, 資料に基づき, 学会ロゴマーク使用に関する内規について提案があり, 承認された。

6. 広報委員会

審議事項なし

7. 国際関係委員会

西郷理事長より, 足立浩平 DSSV2019 実行委員長から, ISI 東京大会記念基金から DSSV2019 への助成に敬意を表し, 日本統計学会の名称を冠した招待講演セッションを設けたいとの連絡があったことが報告された。招待講演セッションを国際関係委員会で企画することが承認された。

8. 渉外委員会

審議事項なし

・今後の予定

2019年2月9日(土) 12:00 理事会・委員会
早稲田大学早稲田キャンパス22号館5階502教室

9. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

● Miodrag Lovric 編 (日本統計学会 訳) 『統計科学百科事典』 B5判, 上製, 箱入, 本文2128pp,

ISBN : 978-4-621-30310-8, 定価 250,000円+税
(日本統計学会会員割引価格 225,000円+税, 国内送料無料)

会員割引価格等の問い合わせ先 :

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2丁目17番
神田神保町ビル6階

丸善出版株式会社 企画・編集部 小根山仁志

電話 (03) 3512-3264 FAX (03) 3512-3272

Eメール : hitoshi.oneyama@maruzen.co.jp

注 :

(1) 会員割引価格の適用期限は2019年2月28日までです。

(2) 発注方法は上記問い合わせ先にお尋ねください。

内容紹介 : 日本統計学会が手掛けてきた, Lovric, M. (ed), *International Encyclopedia of Statistical Science*, 2011, Springer-Verlag の翻訳が完結し, 2018年12月上旬に刊行されることとなりました。通常の百科事典と異なり, 各項目の執筆者にかなりの裁量を与えられて, 比較的自由に項目の内容を記述しているところに特色があります。そのような編集方針の成否については意見の分かれるところとはいえ, 600を超える項目について105か国の研究者が寄稿しており, 類書では取り上げられていない項目も扱われています。詳細は, 以下のサイトを参照のこと。

<https://www.maruzen-publishing.co.jp/item/b303014.html>

10. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2018年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。
(<https://www.jss.gr.jp/fee/>)。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

坂田 年男 会員

入会承認

上原宏, 大槻健太郎, 金子亮也, 川口康平, 木村寛, 黒木裕鷹, 鈴木太郎, 瀬尾亨, 西川哲夫, 西仲則博, 橋立千婁, 畠山彰文, 松井佑介, 松本晋一郎, 村上大輔, 山中卓 (敬称略)

退会承認

大谷敬子, 岡田誠, 菊池泰樹, 城戸喜子, 杉浦航, 縄田成毅, 株式会社電通 (敬称略)

現在の会員数 (2018年12月20日)

名誉会員	15名
正会員	1,399名
準会員	1名
学生会員	51名
総計	1,466名

11. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。

● 求人案内（教員公募など）

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

● 会員活動紹介（叙勲・受章、各種受賞等）

できるだけ e-mail による投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

中央大学経済学部

伊藤 伸介 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp

